

## 6.1 ID&コードブロック

### 6.1A 〔構成と内容〕

ID&コードブロックは、次の 20 種類のフィールドで構成される。

ID、MARCFLG、GMD、SMD、YEAR、CNTRY、TTLL、TXTL、ORGL、REPRO、PSTAT、FREQ、REGL、TYPE、ISSN、XISSN、NDLPN、CODEN、ULPN、GPON

これらは、書誌データを構成する特定の情報をコード化して記録するために設けられたフィールド群である。

それぞれのフィールドに記録される情報は、特定のコード表等に基づいている。

### 6.1B 〔データ記入〕

これらのフィールドにおいては(ただし、ID フィールド及び MARCFLG フィールドを除く)、データ記入は、原則として目録対象資料の最新の情報に基づいて行う。

ID フィールド及び MARCFLG フィールドにおいては、データ記入は、目録システムが行う。

### 6.1C 《注意事項》

一部のコード化情報については、記述ブロックの特定のフィールドに記録した情報をコード化して、ID&コードブロックの対応するフィールドに記録する。

## 6.1.1 ID

### 6.1.1 A〔形式〕

ID	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
データ ID	自動付与	固定長	10 バイト	1

### 6.1.1B〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.1ID(図書書誌データ)においての規定に準ずる。

### 6.1.1C〔データ記入及び表示例〕

データ記入については、2.1.1ID(図書書誌データ)においての規定と同様、目録担当者が入力することはできない。

<AN10043426>

<AA11124714>

### 〔関連項目〕

6.3.2 BHN

## 6.1.2 MARCFLG

### 6.1.2 A 〔形式〕

MARCFLG	入力レベル
変更ありフラグ	不使用

### 6.1.2 B 〔フィールド内容〕

雑誌書誌データにおいては、MARCFLG フィールドは不使用である。

### 6.1.2 C 〔データ記入〕

目録担当者は、このフィールドにデータ記入を行ってはならない。

### 6.1.2 D 《注意事項》

雑誌書誌参照データセットとして用意されている JAPAN/MARC(serial)および US/MARC(serial)は、更新のたびに全書誌データを一括更新する型の MARCFLG であるため、全ての既存書誌データは、実質上の修正が加えられたかどうかのいかんを問わず、更新後は修正が施された扱いになる。

そのため、流用元参照データの更新状況を示す MARCFLG フィールドの機能は、雑誌書誌データにおいてはほとんど意味をなさない。したがって、雑誌書誌データにおいては、MARCFLG フィールドをいっさい表示しないこととした。

### 6.1.3 GMD

#### 6.1.3 A 〔形式〕

GMD	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
一般資料種別コード	必須2	固定長	1バイト	1

#### 6.1.3 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.2 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

#### 6.1.3C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.3 GMD における規定に準ずる。

#### 6.1.3D 〔データ要素の情報源〕

目録対象資料全体。

#### 6.1.3E 〔データ記入及び記入例〕

##### E1

データ記入については、2.1.3 GMD における規定に準ずる。

目録対象資料が通常の印刷物である場合

GMD:

目録対象資料がマイクロフィルムである場合

GMD:h

目録対象資料がビデオカセットである場合

GMD:v

目録対象資料がカセットテープで、解説書を伴っている場合

GMD:s

目録対象資料が冊子体印刷物、及びカセットテープで構成され、どちらが主たる構成要素にあたるのか不明な場合

GMD:

##### E2

複製資料については、原本の資料種別ではなく、複製資料の資料種別について記入する。

原本は冊子体印刷物であるが、目録対象資料はそれをマイクロフィルムに収めた複製である場合

GMD:h

〔関連項目〕

6.1.4 SMD

6.2.5 PHYS

6.2.7 NOTE

## 6.1.4 SMD

### 6.1.4 A 〔形式〕

SMD	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
特定資料種別コード	選択	固定長	1バイト	1

### 6.1.4 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.2 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.4C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.4 SMD における規定に準ずる。

### 6.1.4D 〔データ要素の情報源〕

目録対象資料全体。

### 6.1.4E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

データ記入については、2.1.4 SMD における規定に準ずる。

目録対象資料が通常の印刷物である場合

GMD: SMD:

目録対象資料がマイクロフィッシュである場合

GMD:h SMD:e

目録対象資料がビデオカセットである場合

GMD:v SMD:f

目録対象資料がマイクロフィルム(リール)で、解説書を伴っている場合

GMD:h SMD:d

目録対象資料が冊子体印刷物及びカセットテープで構成され、どちらが主たる構成要素にあたるのか不明な場合

GMD: SMD:

#### E2

複製資料については、原本の資料種別ではなく、複製資料の資料種別について記入する。

原本は冊子体印刷物であるが、目録対象資料はそれをマイクロフィッシュに収めた複製である場合

GMD:h SMD:e

### **E3**

弱視者向け資料のフォント・サイズおよび点字は、SMD フィールドにコードで記録することができる。

GMD: SMD:l (大活字本)

GMD: SMD:t (点字)

#### **6.1.4F 《注意事項》**

SMD フィールドにスペース以外のコードを記入する場合は、GMD フィールドにも対応するコード(「なし」も含む)を記入する必要がある。

〔関連項目〕

6.1.3 GMD

6.2.5 PHYS

6.2.7 NOTE

## 6.1.5 YEAR

### 6.1.5 A 〔形式〕

YEAR	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
(Group Field)	必須 2	可変長		1
刊年 1、刊年 2				
刊年 1	(必須 1)	( 固 定 長)	(4 バイト)	
刊年 2	(必須 2)	( 固 定 長)	(4 バイト)	

### 6.1.5 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.2 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.5C 〔フィールド内容とデータ要素〕

#### C1

フィールド内容については、2.1.5 YEAR における規定に準ずる。

#### C2

YEAR フィールドのデータ要素は、刊年 1 及び刊年 2 である。

刊年 1 には、出版・頒布等開始の日付に対応する西暦年を記録する。

刊年 2 には、出版・頒布等終了の日付に対応する西暦年を記録する。

### 6.1.5D 〔データ要素の情報源〕

#### D1

PUB フィールドの出版・頒布等の日付データ。

#### D2

複製資料の場合は、NOTE フィールドに記録された、原本の出版・頒布等の日付データ。

(→ 6.0.2C2)

### 6.1.5E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

刊年 1、及び刊年 2 には、4 桁の西暦年を記入する。

刊年 1 と刊年 2 の間には、半角スペース 1 つを置く。

YEAR:1986 1990

PUB:東京 : 三井銀行調査部 , 1986-1990

YEAR:1990

PUB:三鷹 : 国立天文台 , 1990-

## E2

出版が開始された年内に出版・頒布が終了した場合は、その同一西暦年を刊年 1 としても刊年 2 としても記入する。

YEAR:1987 1987

PUB:東京 : 交通協力会 , 1987

## E3

出版日付と頒布日付が異なる場合は、出版日付に対応する西暦年を記録する。

YEAR:2022

PUB:[国立] : 日本国際著作権法学会 , 2022.12- # (空値)

PUB:東京 : 有斐閣 , 2023.1- # d

## E4

明確な出版・頒布日付の表示がないために、著作権日付、製作日付、序文・あとがき等の日付、推定による出版・頒布日付を PUB フィールドに(複製資料の場合は NOTE フィールドに)記入した場合は、それらの日付に対応する西暦年を記録する。

初号あるいは終号に出版・頒布日付の表示がなく、かつ著作権日付(又は製作日付)の表示もない場合

YEAR:1983

PUB:[東京] : 国際交流基金 , [1983]-

NOTE:出版年は序による

初号、あるいは初号と終号の双方を所蔵しているが、出版・頒布日付の表示がないため、規定の情報源以外からの情報を記録する、あるいは情報を推定補記する場合

YEAR:1977

PUB:東京 : 全日本舞踊連合 , [1977]-

YEAR:1972 1976

PUB:大阪 : 大阪府医師会 , 1972-[1976]

YEAR:1966 1970

PUB:東京 : 音楽之友社 , [1966]-[1970]

## E5

出版・頒布日付に対応する西暦年が不明の場合は、不明部分の数字をハイフンで代用する。

まったく推定不能の場合のみ4桁ともハイフン「----」を記入する。

YEAR:19--

PUB:大阪 : 日本貿易振興会大阪支部 , [19--]-

## E6

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始日付がPUBフィールドに記入できない場合でも、刊年1には推定可能な部分までを数字で記入し、不明部分のみハイフンを記入する(初号を所蔵していない場合、PUBフィールドには出版・頒布開始日付を推定記入してはならない)。

終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないために出版・頒布開始の日付が確認できない場合

YEAR:1--- 1990

PUB:東京 : 経済調査会出版部 , -1990

NOTE:記述は No. 726 (昭 36. 11) による

初号と終号の双方を所蔵していないために出版・頒布開始及び出版・頒布終了の日付が共に確認できない場合(刊行継続中のため、終号が事実上存在しない場合を含む)

所蔵巻号 No.2, 2007.8 発行, 年1回刊の場合

YEAR:200-

PUB:岡山 : 日本細胞生物学会

NOTE:記述は No. 2 (2007.8) による

## E7

複製資料の場合は、原本の出版・頒布開始の日付に対応する西暦年を刊年1に、原本の出版・頒布終了の日付に対応する西暦年を刊年2に記入する。

YEAR:1951 1971

PUB:京都：臨川書店，1985

NOTE: 原本の出版事項: 東京：俳文學會，1951-1971

#### **6.1.5F 《注意事項》**

##### **F1**

刊年 1 及び刊年 2 には、年月次データを記入してはならない。

##### **F2**

同一の号が何刷も重ねて出版されている場合、刊年 1、及び刊年 2 には、初刷の出版・頒布日付を記入する。

##### **F3**

複製資料の場合、刊年 1 及び刊年 2 には、複製時の出版・頒布日付を記入してはならない。

##### **F4**

終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないため、出版・頒布開始日付がPUBフィールドに記入できない場合は、必ず刊年 1 に推定される刊年（不明部分はハイフン）と記入したうえで、刊年 2 を記入する。刊年 2 のデータだけを単独で記入してはならない。

##### **F5**

刊年 1 と刊年 2 の間には、スペース以外の文字を記入してはならない。

#### **〔関連項目〕**

6.1.11 PSTAT

6.2.4 PUB

6.2.7 NOTE

## 6.1.6 CNTRY

### 6.1.6 A 〔形式〕

CNTRY	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
出版国コード	必須 2	可変長	3 バイト*	1

\*データチェック(→ 付録 2.1)のため、実際は 2 バイト

### 6.1.6 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.6C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.6 CNTRY においての規定と同様である。

### 6.1.6D 〔データ要素の情報源〕

#### D1

PUB フィールドの最初の出版地・頒布地等のデータ。

#### D2

複製資料についても同様に、PUB フィールドの最初の出版地・頒布地等のデータ。(→ 6.0.2C3)

### 6.1.6E 〔データ記入及び記入例〕

データ記入については、2.1.6 CNTRY においての規定と同様である。

出版地から(容易に)出版国・地域が判明する場合

CNTRY:ja

PUB:奈良 : 奈良県立美術館 , 1985-

CNTRY:ja

PUB:東京 : 日経 BP 社

CNTRY:ch

PUB:臺北 : 中華民國獸醫學會 , 1975-

CNTRY:us

PUB:Palo Alto : 日米女性情報センター , 1988-

出版地が不正確又は不明のため、規定の情報源以外からの情報を記録する場合

CNTRY:ja

PUB:[大阪]:大阪府

CNTRY:ja

PUB:[東京]:国立国会図書館調査及び立法考査局

CNTRY:ja

PUB:[東京]:[文部省], 1875.1-

刊行時点での出版国コードと現在の出版国コードが異なる場合

CNTRY:ja

PUB:那覇:沖縄公論社, 1961-

CNTRY:ru

PUB:豊原:樺太商工經濟會, 1943-

(出版地等に対応する国名・領土等に変更があった場合は、目録対象資料の出版時期にかかわらず、最新の出版国コード表によってコードを記入する。)

出版地は表示されているが対応する国名・地域名が不明の場合

CNTRY:

PUB:新嘉坡:南洋協會新嘉坡商品陳列館, 1935.5-

(ただし、「新嘉坡」が「シンガポール」の漢字形であることがわかる場合は次のとおり)

CNTRY:si

PUB:新嘉坡:南洋協會新嘉坡商品陳列館, 1935.5-

複製資料の場合

CNTRY:ja

PUB:[東京]:以文社, 1986

NOTE:原本の出版事項: 京城:朝鮮農業會, 1910-1942

#### 6.1.6F 《注意事項》

##### F1

政府がその国境外で出版した目録対象資料については、出版地・頒布地等に対応するコードではなく、当該政府に対応するコードを記入する。

CNTRY:uk

PUB:東京：駐日英国大使館公報部，1966.9-

CNTRY:ja

PUB:臺北：臺灣總督府財務局

##### F2

最初の出版地・頒布地等とは、PUB フィールド中に記録される最初の出版地・頒布地等のことであり、翻訳書、複製物等の原本の出版地・頒布地等のことではない。

##### F3

複製資料の場合も、原本の出版国・地域ではなく、PUB フィールド中に記録される複製の出版地・頒布地に対応する国名・地域名のコードを記録する。

##### F4

最初の出版地・頒布地等に「[出版地不明]」と記録する場合は、出版国コードにはデータ記入を行わないか、又はコード「xx」を記入する。たとえ出版国・地域の推定が可能でも、当該国名・地域名に対応するコードを記入してはならない。出版地自体が規程の情報源以外等から補記できる場合は、できる限りPUBフィールド中の出版地・頒布地等として補記したうえで、出版国コードにデータ記入を行う。

出版地が全く不明な場合

CNTRY:xx

PUB:[出版地不明]：信託協会

CNTRY:xx

PUB:[出版地不明]：[出版者不明]

出版国・地域の推定が可能な場合

CNTRY:

PUB:[出版地不明]：日本教育学会中国四国支部会，1956-

CNTRY:

PUB:[出版地不明]:東京名墓顕彰会

## F5

以前の出版国コード表によってコードを記入してはならない。

〔関連項目〕

6.2.4 PUB

## 6.1.7 TTLL

### 6.1.7 A 〔形式〕

TTLL	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
本タイトルの言語コード	必須 1	可変長	3 バイト	1

### 6.1.7 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.7C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.7 TTLL においての規定に準ずる。

### 6.1.7D 〔情報源〕

#### D1

TR フィールドの本タイトルデータ。

#### D2

複製資料の場合も同様に、TR フィールドの本タイトルデータである。ただし、複製資料の場合は、TR フィールドには複製時のタイトルではなく、原本のタイトルを記入することに注意する。(→ 6.0.2 C4)

### 6.1.7E 〔データ記入及び記入例〕

データ記入については、2.1.7 TTLL においての規定に準ずる。

本タイトルが日本語の場合

TTLL:jpn

TR:日本語教育 / 日本語教育学会||ニホンゴ キョウイク

TTLL:jpn

TR:日本語教育年鑑 = Japanese education almanac / 日本語教育年鑑編集部||ニホンゴ キョウイク ネンカン

TTLL:jpn

TR:ストレスと人間科学 : journal of stress sciences / 日本ストレス学会編||ストレス ト ニンゲン カガク

本タイトルが外国語の場合

TTL:eng

TR:The English journal

TTL:ger

TR:Deutsche medizinische Wochenschrift

本タイトルが外来語の場合

TTL:jpn

TR:ザ・テクニカルライター = The Technical writer / アイディ編集部||ザ・テクニカル  
ライター

本タイトルが外国語と日本語の折衷形であり、外国語原綴の排列無視語、ストップワードを含む場合

TTL:eng

TR:別冊 the English journal||ベッサツ the English journal

本タイトルが外国語と日本語の折衷形であり、外国語原綴の排列無視語、ストップワードを含まない場合

TTL:jpn

TR:メディア journal||メディア journal

本タイトルの言語が特定できない場合

TTL:und

TR:GRC

複製資料の場合

TTL:eng

TR:Japanpunch

NOTE:復刻版の標題:ジャパン・パンチ

## 6.1.7F 《注意事項》

### F1

本タイトルの言語は、本文の言語とは無関係である。

### F2

本タイトルの言語は、タイトル関連情報、並列タイトルや、複製時に付与されたタイトル等のその他のタイトルの言語とは無関係である。したがって、TTLL フィールドに複数の言語コードが記入されることはありえない。

### F3

本タイトルの言語コードは、各言語固有の排列無視語、ストップワードの排除の目的にも活用されるものであるので、本タイトルが外来語であっても、カナで表現されているために原綴形での排列無視語やストップワードを含んでいないならばコード「jpn」を記入する。

### F4

本タイトルが外国語と日本語の折衷形である場合は、外国語原綴形での排列無視語やストップワードを含んでいないならばコード「jpn」を記入し、これらを含んでいる場合は、その語の言語に対応する言語コードを記入する。

### F5

本タイトルの言語は、特定の 1 言語であるか、いずれの言語かが特定できないかのどちらかである。

本タイトルの言語が特定できない場合は、コード「und」を記入する。

## 〔関連項目〕

### 6.2.1 TR

## 6.1.8 TXTL

### 6.1.8 A 〔形式〕

TXTL	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
本文の言語コード	必須 1	可変長	24 バイト*	1

\*データチェック(→ 付録 2.1)のため、実際は 18 バイト

### 6.1.8 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.8 C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.8 TXTL における規定に準ずる。

### 6.1.8 D 〔情報源〕

#### D1

目録対象資料の本文部分。

#### D2

複製資料の場合は、複製された原本の本文部分。(→ 6.0.2C4)

### 6.1.8 E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

本文の言語コードには、本文の言語に対応する 3 桁のコードを記入する。(→ 付録 1.3 言語コード表)

TXTL:jpn

#### E2

本文の言語が不明の場合、コード表で未定義の場合及び本文が全くない資料の場合は、コード「und」を記入する。

TXTL:und

#### E3

初号(あるいは記述の根拠となった所蔵最古号)の本文に限らず、以降の全巻号の本文の言語についてデータ記入を行う。したがって、従来使用されていなかった言語によるテキストが掲載されるようになった場合には、その言語に対応するコードを追加記入する。

#### **E4**

本文が複数の言語で書かれている場合(ただし、6言語以下)は、当該目録対象資料において優勢な言語の順にコードを記入する。それぞれのコードは、間にスペースを置かず、続けて記入する。

優勢な言語の順位を確定できない場合は、言語コードのアルファベット順にコードを記入する。

TXTL:jpnengfreger

#### **E5**

本文が7つ以上の言語で書かれている場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」(多言語)を記入する。

主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

#### **E6**

本文が複数の言語で書かれていても、多言語で書かれていること自体にさしたる意味がない場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」を記入する。

主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

TR:国立国会図書館所蔵科学技術関係欧文会議録目録 / 国立国会図書館専門資...

### **6.1.8F 《注意事項》**

#### **F1**

本文の言語は、本タイトルの言語とは無関係である。

#### **F2**

初号(あるいは記述の根拠となった所蔵最古号)の本文に限らず、以降の全巻号の本文の言語についてデータ記入を行う。

本来、本文には前付け(序文、目次等)、要約(summary)、付録等は含まれない。これら自

体が当該目録対象資料において重要な意味を持っていない限り、これらの言語に対応するコードを記入してはならない。

複製資料の場合、複製時に新たに作成された前付け、付録等の言語に対応するコードは記入してはならない。

### **F3**

抄録誌・索引誌、目録、データ集等においては、一番優勢な言語(又は主たる言語)に相当するのは、以下の言語である。

- 1) 抄録誌・索引誌、目録等 ..... 凡例、解説等の言語
- 2) データ集、統計書等 ..... 凡例、解説、見出し等の言語
- 3) 対訳誌等 ..... 本文中にある、主たる利用対象者の母語

### **F4**

複数のコードを記入する場合、それぞれのコードの間にスペースや記号を記入してはならない。

#### **〔関連項目〕**

6.1.9 ORGL

6.2.7 NOTE

## 6.1.9 ORGL

### 6.1.9 A 〔形式〕

ORGL	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
原本の言語コード	選択	可変長	24 バイト*	1

\*データチェック(→ 付録 2.1)のため、実際は 18 バイト

### 6.1.9 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.9C 〔フィールド内容とデータ要素〕

#### C1

ORGL フィールドには、翻訳の原本の言語に対応する言語コードをデータ要素として記録する。

#### C2

ORGL フィールドは、目録対象資料が一貫して翻訳を掲載する資料である場合に、直接の翻訳対象となった言語(翻訳の原本の言語)による検索、統計処理等を可能にするために設けられたフィールドである。

### 6.1.9D 〔データ要素の情報源〕

どこからでもよい。

### 6.1.9E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

翻訳が原テキストから直接行われている場合は、ORGL フィールドには、翻訳の原テキストの言語に対応する 3 桁のコードを記入する。(→ 付録 1.3 言語コード表)

TXTL:jpn ORGL:eng

TR:現代アメリカデータ総覧 / 合衆国商務省センサス局||ゲンダイ アメリカ データ ソウラン

VT:OR:Statistical abstract of the United States

#### E2

翻訳が原テキスト以外から行われている場合は ORGL フィールドには、直接の翻訳対象となったテキストの言語に対応するコードを記入する。

### E3

目録対象資料に原テキストとその翻訳が同時に収められている場合(対訳)は、原テキストの言語に対応するコードを記入することができる。

TXTL:jpneng ORGL:eng

TR:Platinum metals review = プラチナ・メタルズ・レビュー||Platinum metals review = ...

### E4

複製資料の場合は、複製の対象となった原本そのものの言語ではなく、その原本が翻訳を一貫して掲載する資料である場合の、翻訳部に対する原本資料の言語コードを記入する。

### E5

翻訳の原本の言語が不明の場合は、当該言語に対してコード「und」(言語名不明)を記入する。

### E6

翻訳の原本の言語が複数にわたる場合(ただし、6言語以下)は、言語コードのアルファベット順にコードを記入する。それぞれのコードは、間にスペースを置かず、続けて記入する。

TXTL:jpn ORGL:engfre

TR:ユネスコ文化統計年鑑 / ユネスコ編 ; ユネスコ・アジア文化センター監訳||ユネスコ  
ブンカ トウケイ ネンカン

VT:OR:UNESCO statistical yearbook

### E7

翻訳の原本の言語が7以上にわたる場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」(多言語)を記入する。

主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

### E8

目録対象資料に収められている著作が翻訳であるかどうか判明しない場合は、当該著作は翻訳ではないとみなし、原本の言語コードにはデータ記入を行わない。

## 6.1.9F 《注意事項》

### F1

目録対象資料の全体が翻訳誌、対訳誌、あるいは毎回翻訳を掲載するものである場合にデータ記入を行い、翻訳が全く収められていないものや、翻訳がときおり掲載される程度のものについては、原本の言語コードにはデータ記入を行わない。

## **F2**

原本の言語コードは、直接の翻訳対象となったテキストの言語にのみ関係する。

翻訳が原テキスト以外から行われている場合は、原テキストの言語に対応するコードを記入してはならない。

## **F3**

原本資料のタイトルの言語とは無関係である。

## **F4**

複数のコードを記入する場合、それぞれのコードの間にスペースを記入してはならない。

## **F5**

目録対象資料に収められている著作が翻訳であるかどうか判明しない場合、原本の言語コードは一切記入しないこととし、コード「und」を記入してはならない。

## **F6**

複製資料の場合、原本の言語とは、複製の対象となった原本ではなく、その原本が一貫して翻訳を掲載する資料であった場合の、翻訳部の、さらに原本となった資料の言語コードを記入する。

### **〔関連項目〕**

6.1.8 TXTL

6.2.6 VT

## 6.1.10 REPRO

### 6.1.10 A 〔形式〕

REPRO	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
複製コード	選択	固定長	1バイト	1

### 6.1.10 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.10C 〔フィールド内容とデータ要素〕

フィールド内容とデータ要素については、2.1.10 REPRO においての規定に準ずる。

### 6.1.10D 〔データ要素の情報源〕

どこからでもよい。

### 6.1.10E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

目録対象資料が複製物である場合は、REPRO フィールドに 1 桁のコード「c」を記入する。(→ 付録 1.7 その他のコード表)

REPRO:c

TR:いはらき||イバラキ

ED:縮刷版

NOTE:原資料の出版事項: 水戸 : 茨城新聞社, 1947-1990

REPRO:c

TR:いはらき||イバラキ

ED:[マイクロフィッシュ版]

NOTE:原資料の出版事項: 水戸 : 茨城新聞社, 1947-1990

REPRO:c

TR:築地小劇場 / 築地小劇場||ツキジ ショウゲキジョウ

ED:復刻版

NOTE:複製の対象 (体現形): 築地小劇場 / 築地小劇場 [編]. -- [東京]: 築地小劇場, 1924-1930

NOTE:解説・総目次・索引あり

## E2

目録対象資料の全体が複製物である場合にコード「c」を記入し、目録対象資料の中に部分的に複製物が掲載される程度の場合は、REPRO フィールドにはデータ記入を行わない。

複製時に添付された、索引、解説書等の付属資料の存在については考慮に入らず、目録対象資料の本体が複製物であれば、コード「c」を記入する。

## E3

目録対象資料が複製物でない場合は、REPRO フィールドにはデータ記入を行わない。

REPRO:

TR:いはらき||イバラキ

## E4

目録対象資料が複製物であるかどうか判明しない場合は、当該資料は複製物ではないとみなし、REPRO フィールドにはデータ記入を行わない。

### 6.1.10F 《注意事項》

#### F1

複製コードは、目録対象資料が複製物であるかどうかだけに関係する。

目録対象資料が複製物である場合は、当該複製物の原資料が刊行されているかどうかにかかわらず、また、原資料にかかわる書誌データが総合目録データベース中(又は参照データセット中)に存在するかどうかにかかわらず、コード「c」を記入する。

#### F2

目録対象資料の本体が複製物である場合は、複製時に添付された、索引、解説書等の付属資料の有無にかかわらず、コード「c」を記入する。

#### F3

目録対象資料が複製物であることが明確であるならば、REPRO フィールドにコード「c」を記入すると同時に、ED フィールドにも、複製であることを示す版表示を記入する必要がある。

#### 〔関連項目〕

6.1.3 GMD

6.1.4 SMD

6.2.2 ED

6.2.7 NOTE

## 6.1.11 PSTAT

### 6.1.11 A〔形式〕

PSTAT	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
出版状況コード	選択	固定長	1バイト	1

### 6.1.11 B〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.11C〔フィールド内容とデータ要素〕

PSTAT フィールドには、目録対象資料が刊行中であるかどうかをコード化して記録する。(→付録 1.6 出版等に関するコード表)

### 6.1.11D〔データ要素の情報源〕

#### D1

PUB フィールドの出版・頒布等の日付データ、YEAR フィールド及び VLYR フィールド。

#### D2

複製資料についてはデータ記入を行わない。

### 6.1.11E〔データ記入及び記入例〕

#### E1

PSTAT フィールドには、目録対象資料の出版状況を示す 1 桁のコードを記入する。

YEAR:1988

PSTAT:c

VLYR:第 1 巻第 1 号 (昭 63.8)-

PUB:東京 : 産業医学振興財団 , 1988-

#### E2

継続刊行中の場合は、コード「c」(刊行中)を記入する。

既に廃刊になっていることが明白である、あるいは、改題によりその目録対象資料のタイトルを冠した号がもはや刊行されることが明白である場合を除き、最近 3 年以内に受け入れた号があれば、刊行中とみなしてコード「c」を記入する。

#### E3

既に廃刊になっていることが明白である場合は、コード「d」(廃刊)を記入する。

改題によりその目録対象資料のタイトルを冠した号がもはや刊行されないことが明白である場合は、コード「d」を記入する。

3年を経ても新しい号が出版されないものは、廃刊になったものとみなし、コード「d」を記入する。

YEAR:1--- 1970

PSTAT:d

VLJR:-昭和 44 年 (昭 44)

PUB:東京：日本百貨店協会，-1970.3

#### E4

継続刊行中か廃刊になったかが不明の場合は、コード「u」(出版状況不明)を記入する。

YEAR:1956

PSTAT:u

VLJR:第 1 輯 (1956. 7)-

PUB:京都：ハーバード・燕京・同志社東方文化講座委員会，1956-

#### 6.1.11F 《注意事項》

##### F1

複製資料については、原本の、あるいは複製時の出版状況が判明していても、一切データ記入を行わない。

YEAR:1925 1929

REPRO:c

PSTAT:

ED:[覆刻版]

VLJR:No.1 (1925. 9)-第 238 号 (昭 4. 8)

PUB:東京：法政大学出版局，1975-1979

NOTE:原本の出版事項: 東京：無産者新聞社, 1925-1929

##### F2

休刊の表示は廃刊と同等とみなしコード「d」を記入する。

その復刊した場合には、改めてコード「c」と修正する。

#### 〔関連項目〕

6.1.5 YEAR

6.1.10 REPRO

6.2.2 ED

6.2.3 VLYR

6.2.4 PUB

## 6.1.12 FREQ

### 6.1.12 A 〔形式〕

FREQ	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
刊行頻度コード	必須 2	固定長	1 バイト	1

### 6.1.12 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.12C 〔フィールド内容とデータ要素〕

FREQ フィールドには、目録対象資料の最新の刊行頻度をコード化して記録する。(→ 付録 1.6 出版等に関するコード表)

### 6.1.12D 〔データ要素の情報源〕

#### D1

タイトル中やその他の箇所に表示された刊行頻度を示す語句、年月次等の目録対象資料に示された表示をはじめ、どこからでもよい。

#### D2

複製資料についてはデータ記入を行わない。

### 6.1.12E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

刊行頻度コードには、目録対象資料の最新の刊行頻度に対応する 1 桁のコードを記入する。

刊行頻度が月刊の場合

FREQ:m

刊行頻度が季刊の場合

FREQ:q

刊行頻度が年刊の場合

FREQ:a

#### E2

刊行頻度が意図的に不定期である場合は、データ記入を行わない。

FREQ:

### E3

目録対象資料の刊行頻度に完全に合致対応する刊行頻度コードがなければ、最も近い刊行頻度を示すコードを採択する。

### E4

1冊しか刊行されなかった資料については、意図されていた刊行頻度が判明しているならば、その刊行頻度に対応するコードを記入し、全くわからない場合はコード「u」(刊行頻度不明)を記入する。

刊行頻度が不明である場合

FREQ:u

1冊しか刊行されなかったが、意図された刊行頻度が明白である場合

FREQ:q

TR:季刊新児童文化 / 新児童文化研究所||キカン シンジドウ ブンカ  
VLYR:第1号 (1977. 秋)-第1号 (1977. 秋)

## 6.1.12F 《注意事項》

### F1

複製資料については、原本の、あるいは複製時の刊行頻度が判明していても、一切データ記入を行わない。

REPRO:c

FREQ:

TR:月刊作文研究 / 日本綴方の会編集||ゲツカン サクブン ケンキュウ

ED:復刻版

### F2

刊行頻度に変更があった場合は、最新の刊行頻度に対応する刊行頻度コードを記入する。従来の刊行頻度、および刊行頻度の変更については NOTE フィールドに記入することが望ましいが、これは選択事項である。

FREQ:m

NOTE:刊行頻度変更: 隔月刊 (第 1 号 (1971.1)-第 6 号 (1971.11))→月刊 (第 7 号 (1972.1)-)

### **F3**

出版事情に起因する刊行頻度の一過性の変動は考慮に入れず、出版に際して意図された最新の刊行頻度を記録する。

これらの刊行頻度の一過性の変動については NOTE フィールドに記入することが望ましいが、これは選択事項である。

#### **〔関連項目〕**

6.1.10 REPRO

6.1.13 REGL

6.2.2 ED

6.2.7 NOTE

### 6.1.13 REGL

#### 6.1.13 A 〔形式〕

REGL	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
定期性コード	必須 2	固定長	1 バイト	1

#### 6.1.13 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

#### 6.1.13C 〔フィールド内容とデータ要素〕

REGL フィールドには、目録対象資料の最新の刊行の定期性遵守状況をコード化して記録する。(→ 付録 1.6 出版等に関するコード表)

#### 6.1.13D 〔データ要素の情報源〕

##### D1

目録対象資料全体をはじめ、資料受け入れ記録など、どこからでもよい。

##### D2

複製資料についてはデータ記入を行わない。

#### 6.1.13E 〔データ記入及び記入例〕

REGL フィールドには、目録対象資料の最新の刊行の定期性遵守状況に対応する 1 桁のコードを記入する。

刊行頻度が月刊である場合

FREQ:m REGL:r

ほぼ月刊であるが、毎年必ず 7 月号と 8 月号が合併号として刊行される場合

FREQ:m REGL:n

NOTE:毎年 7 月号と 8 月号は合併号として刊行

刊行頻度が年 12 回刊(刊行月、刊行間隔不定)である場合

FREQ:m REGL:x

NOTE:年 12 回刊(刊行月、刊行間隔不定)

刊行頻度が年 11 回刊(刊行月、刊行間隔不定)である場合

FREQ:m REGL:x

NOTE:年 11 回刊(刊行月、刊行間隔不定)

刊行頻度が不明である場合

FREQ:u REGL:u

刊行頻度が意図的に不定期である場合

FREQ: REGL:x

### 6.1.13F 《注意事項》

#### F1

複製資料については、原本の、あるいは複製時の刊行の定期性遵守状況が判明していても、一切データ記入を行わない。

REPRO: c

FREQ: REGL:

ED:縮刷版

#### F2

1冊しか刊行されなかった資料については、意図されていた刊行頻度が判明しているならば、「r」(定期)を記入する。

FREQ:q REGL:r

TR:季刊新児童文化 / 新児童文化研究所||キカン シンジドウ ブンカ

VLYR:第1号(1977.秋)-第1号(1977.秋)

#### F3

刊行の定期性遵守状況に変更があった場合は、最新の定期性に対応する定期性コードを記入する。

従来の定期性遵守状況及び定期性の変更についてはNOTEフィールドに記入することが望ましいが、これは選択事項である。

#### F4

刊行間隔や刊行日程が一定しないために定期性コードとして「x」(不定期)を使用するものや、通常の刊行頻度とは多少異なった規則性に基づいて刊行されるために定期性コードとして「n」(規則的不定期)を使用するものについては、その刊行頻度を具体的にNOTEフィールドに記入することが望ましいが、これは選択事項である。

#### F5

出版事情に起因する刊行頻度の一過性の変動は不定期とはみなさず、定期性が守られているとみなしてコード「r」（定期）を記入する。

これらの刊行頻度の一過性の変動については NOTE フィールドに記入することが望ましいが、これは選択事項である。

**〔関連項目〕**

6.1.10 REPRO

6.1.12 FREQ

6.2.2 ED

6.2.7 NOTE

## 6.1.14 TYPE

### 6.1.14 A 〔形式〕

TYPE	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
逐次刊行物のタイプコード	必須 2	固定長	1 バイト	1 逐次刊行物

### 6.1.14 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.14C 〔フィールド内容とデータ要素〕

TYPE フィールドには、目録対象資料の、逐次刊行物としての種別をコード化して記録する。(→ 付録 1.6 逐次刊行物のタイプコード表)

### 6.1.14D 〔データ要素の情報源〕

#### D1

目録対象資料全体。

#### D2

複製資料についてはデータ記入を行わない。

### 6.1.14E 〔データ記入及び記入例〕

逐次刊行物のタイプコードには、目録対象資料の、逐次刊行物としての種別に対応する 1 桁のコードを記入する。

目録対象資料が紀要である場合

TYPE:p

目録対象資料が新聞である場合

TYPE:n

目録対象資料がテクニカル・レポートである場合

TYPE:m

目録対象資料が年鑑である場合

TYPE:

### 6.1.14F 《注意事項》

## **F1**

複製資料については、一切データ記入を行わない。

TYPE:

REPRO:c

TR:北海道帝國大學新聞||ホッカイドウ テイコク ダイガク シンブン

ED:複製版

## **F2**

逐次刊行物のタイプコードは、目録対象資料の内容面での種別にのみ関係し、タイトルや刊行頻度とは無関係である。

## **F3**

逐次刊行物書誌データで使用される TYPE フィールドは、著者名典拠データで使用される TYPE フィールドとは、全く異なるものなので、混同してはならない。

### **〔関連項目〕**

6.1.10 REPRO

6.2.2 ED

## 6.1.15 ISSN

### 6.1.15 A 〔形式〕

ISSN	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
国際標準逐次刊行物番号	必須 2	可変長	32 バイト*	1

\*データチェック(→付録 2.1)のため、実際は 8 バイト

### 6.1.15 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.15C 〔フィールド内容とデータ要素〕

ISSN フィールドには、目録対象資料にかかわる国際標準逐次刊行物番号(ISSN)をデータ要素として記録する。

### 6.1.15D 〔データ要素の情報源〕

どこからでもよい。

### 6.1.15E 〔データ記入及び記入例〕

ISSN フィールドには、目録対象資料に付与された ISSN のうち、当該書誌データの書誌単位にかかわる番号を記入する。

目録対象資料等に表示された ISSN のうち、冒頭の「ISSN」という記号や、国名を示す記号は省略する。

ISSN:00215090

ISSN:0021-5090

### 6.1.15F 《注意事項》

#### F1

シリーズ全体に付与された ISSN など他の書誌データとも共有する ISSN や、当該書誌のうちの特定の冊子群にのみ付与された ISSN は XISSN フィールドに記録する。

#### F2

ISSN と一体となったタイトルであるキー・タイトルは、VT フィールドにコード「KT」とともに記録する。

ISSN と一体となって書誌票に表示されている略タイトルは、VT フィールドにコード「AB」とともに記録する。

### **F3**

ISSN フィールドには、8桁の番号（アラビア数字と X）及びハイフン以外を記入してはならない。

ただし、ハイフンについては、目録システム登録後に正規化処理が行われ、削除される。（→ 付録 2.2 正規化処理）

ハイフンを記入しない場合は、ハイフンの代わりにスペース、その他の記号等を記入してはならない。

### **F4**

ISSN フィールドにかかわるエラーメッセージが表示された場合は、桁数不足や誤植などの原因のため、記入した番号は不正である。（→ 付録 2.1 データチェック）

不正ではあるが目録対象資料その他に表示されている番号は、XISSLN フィールドに記録する。不正な番号を ISSN フィールドに記入してはならない。

### **F5**

タイトル変遷して新たなキー・タイトルが付与されているにもかかわらず、目録対象資料上に表示されている、変遷前誌からひきついだ ISSN は、ISSN フィールドには記入せず、XISSLN フィールドに記録する。

### **F6**

不正な番号に代わる正しい ISSN が判明する場合は、当該番号を ISSN フィールドに記入する。不正な番号は、XISSLN フィールドに記録することができる。

#### **〔関連項目〕**

6.1.16 XISSLN

6.2.6 VT

6.2.7 NOTE

## 6.1.16 XISSN

### 6.1.16 A 〔形式〕

XISSN	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
無効/取消 ISSN	必須 2	可変長	32 バイト	8

### 6.1.16 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.16C 〔フィールド内容とデータ要素〕

XISSN フィールドには、ISSN フィールドには記入しない国際標準逐次刊行物番号(ISSN)をデータ要素として記録する。

### 6.1.16D 〔データ要素の情報源〕

目録対象資料全体。

### 6.1.16E 〔データ記入及び記入例〕

#### E1

無効/取消 ISSN には、ISSN フィールドに記入しない次のものを記入する。

- 1) 桁数不足や誤植などのために ISSN フィールドに記入できない無効 ISSN
- 2) キー・タイトル変更(タイトル変遷)があったにもかかわらず依然表示され続けている取消 ISSN
- 3) 当該書誌データ以外の書誌とも共有する ISSN
- 4) 当該書誌の特定の冊子群にのみ付与された ISSN

ISSN:09152393 XISSN:09152392

ISSN:09147675 XISSN:02851385

NOTE:Vol. 13, no. 1 の表紙の ISSN: 0285-1385(変遷前誌から引き継いだもの)

#### E2

目録対象資料等に表示された ISSN のうち、冒頭の「ISSN」という記号や、国名を示す記号は省略する。

#### E3

番号を構成する 8 桁の数字(及び「X」)の 4 桁目と 5 桁目の間にハイフンが表示されていても、記入に際して必ず取り除いて間を詰める。

#### 6.1.16F 〔フィールドの繰り返し〕

目録対象資料にかかわる無効/取消 ISSN が複数ある場合は、XISSN フィールドをその数だけ繰り返し、番号の昇順に、それぞれの番号を記入する。

#### 6.1.16G 《注意事項》

##### G1

ISSN フィールドとは異なり、ハイフンは正規化処理の対象とはならないため、ハイフンを記入した場合は、ハイフンは削除されずそのまま登録される。したがって、ハイフンは記入に際して必ず取り除いて間を詰める。

##### G2

無効/取消 ISSN として XISSN フィールドに記入した番号については、それがいかなる対象に付与された、あるいは表示されたものであるのかを NOTE フィールドに記入するのが望ましいが、これは選択事項である。

##### G3

目録対象資料上に表示されていない、変遷前誌の ISSN をことさらに記入してはならない。

#### 〔関連項目〕

6.1.15 ISSN

6.2.7 NOTE

## 6.1.17 NDLPN

### 6.1.17 A 〔形式〕

NDLPN	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
NDL 雑誌番号	選択	可変長	16 バイト	1

### 6.1.17 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.17C 〔フィールド内容とデータ要素〕

NDLPN フィールドには、目録対象資料にかかわる国立国会図書館(National Diet Library : NDL)のデータ識別番号をデータ要素として記録する。

### 6.1.17D 〔データ要素の情報源〕

JAPAN/MARC(S)をはじめ、どこからでもよい。

### 6.1.17E 〔データ記入及び記入例〕

NDLPN フィールドには、目録対象資料にかかわる NDL 雑誌番号を記入する。

NDLPN:00077479

### 6.1.17F 〔フィールドの繰り返し〕

同一書誌に複数の NDL 雑誌番号が付与されている場合は、一番若い番号を NDLPN フィールドに記入する。NDLPN フィールドに記入しなかった方の NDL 雑誌番号は NOTE フィールドに記入することができるが、これは選択事項である。

### 6.1.17G 《注意事項》

#### G1

NDL 雑誌番号が、従来のまま 5 桁になっているデータは、8 桁に揃えることが望ましい。

#### G2

NDL 雑誌番号は「国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録」や「国立国会図書館所蔵和雑誌目録」には下 5 桁のみが「ID」として表示されている。和文誌の場合の上 3 桁は「000」、欧文誌の場合の上 3 桁は「100」である。

また、NDL 雑誌番号の下 7 桁は、全国書誌番号の後半数値部 7 桁と等しく、残る上 1 桁は、和文誌の場合は「0」、欧文誌の場合は「1」である。

NDL 雑誌番号 : 00037836

「国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録」掲載 ID : 37836

全国書誌番号 : JPS0037836

### G3

国立国会図書館の請求記号を、NDL 雑誌番号として記入してはならない。

#### 〔関連項目〕

6.2.7 NOTE

## 6.1.18 CODEN

### 6.1.18 A 〔形式〕

CODEN	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
CODEN	必須 2	可変長	16* バイト	1

\*データチェック(→ 付録 2.1)のため、実際は 6 バイト

### 6.1.18 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.18C 〔フィールド内容とデータ要素〕

CODEN フィールドには、目録対象資料にかかわる CODEN をデータ要素として記入する。

### 6.1.18D 〔データ要素の情報源〕

どこからでもよい。

### 6.1.18E 〔データ記入及び記入例〕

CODEN フィールドには、目録対象資料に対して米国材料試験協会(American Society for Testing and Materials)、Chemical Abstracts Service (1975 年以降)が付与した誌名識別用コード、CODEN を記入する。

CODEN:JUNKAU

CODEN:KEIKA6

CODEN:NIPEA

### 6.1.18F 〔フィールドの繰り返し〕

#### F1

同一資料に複数の CODEN が付与されている場合は、最新のものを CODEN フィールドに記入する。

#### F2

同一資料に 5 桁のものと 6 桁のものの 2 種類の CODEN が付与されている場合は、6 桁のものを CODEN フィールドに記入する。

#### F3

CODEN フィールドに記入しなかった CODEN は、NOTE フィールドに記入できるが、

これは選択事項である。

#### **6.1.18G 《注意事項》**

CODEN フィールドにかかわるエラーメッセージが表示された場合は、桁数不足(4 桁以下)や誤植などの原因のため、記入した番号は不正である。(→ 付録 2.1 データチェック)  
不正な番号を CODEN フィールドに記入してはならない。

なお、CODEN フィールドに記入しなかった CODEN は、NOTE フィールドに記入できるが、これは選択事項である。

#### **〔関連項目〕**

6.2.7 NOTE

## 6.1.19 ULPN

### 6.1.19 A 〔形式〕

ULPN	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
ULP 番号	選択	可変長	16 バイト	1

### 6.1.19 B 〔記述文法〕

記述文法については、「付録 6.3 雑誌書誌データの記述文法」を参照のこと。

### 6.1.19C 〔フィールド内容とデータ要素〕

ULPN フィールドには、「学術雑誌総合目録」の旧版において目録対象資料に付与した誌名番号、すなわち ULP 番号(6 桁または 10 桁の数字及び文字)をデータ要素として記録する。

### 6.1.19D 〔データ要素の情報源〕

「学術雑誌総合目録和文編」の 1985 年版以前の版など、どこからでもよい。

### 6.1.19E 〔データ記入及び記入例〕

ULPN フィールドには、目録対象資料に付与された ULP 番号を記入する。

ただし、ULP 番号は過去において使用されていたものであり、その果たす役割は、現在のデータ ID にとって代わられているため、新規書誌データ作成にあたって新たな ULP 番号が制定されることはない。

従って ULPN フィールドは、新規書誌データ作成には全く関与しない項目である。

ULPN:127050000

ULPN:001278

### 6.1.19F 〔注意事項〕

ULPN フィールドは、現在は実質上使用されず、新規制定も行われなため、新規書誌データ作成には全く関与しない項目である。

したがって、新規書誌データ作成時 ULPN フィールドにはデータ記入を行わない。